

令和 7 年度

「運営に関する計画」
中間評価

令和 7 年 10 月

大阪市立東粉浜小学校

(様式 2 - 1)

大阪市立東粉浜小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。(R6 年度 80.1%) ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88% 以上にする。(R6 年度 86.5%) ○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87% 以上にする。(R6 年度 82%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・不登校への対応 ・いじめや不登校など配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・人権教育部長・養護教諭・管理職が連携して、組織的かつ SC や SSW など外部機関とも連携しながら丁寧に対応していく。 ・いじめ (いのち) について考える日や道徳授業において、いじめ (いのち) について深く考える授業を行う。 ()	B
指標 ・配慮や支援の必要な児童について、いいとこみつけ・スクリーニングシートの活用や共通理解の場を月一回設ける。 ・いじめ (いのち) について考える日や道徳授業において、学期に 1 回以上いじめに関する指導を行い定期的にいじめ (いのち) について考える機会を設ける。	
取組内容② 【1 安全・安心な教育環境の実現】 防災・減災教育の推進 ・火災や地震・津波の避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、救急救命講習会などを計画し、区役所、警察、消防署などとも連携しながら、取組を進める。 ・子どもの意識を高めるため、防災学習に取り組む。 ()	B
指標 ・避難訓練、引き渡し訓練、防災学習等、様々な状況を想定した命を守る学習を計画的に実施する。	
取組内容③ 【2 豊かな心の育成】 自尊感情の育成 ・日々の授業や学級活動、他学年との交流活動を通して、自分のよさに気づいたり、	

仲間に認められたりする場を設ける。	()	B
指標		
・生活振り返りカードにおいて、「まわりにいる人から、『ありがとう』や『すごいね』と言われたことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上で維持する。(R6 年度 95.5%)		
取組内容④【2 豊かな心の育成】		B
道徳教育の推進		
・道徳教育の充実を図り、子ども同士が意見を交流することができる授業を展開するために、道徳教育推進教師による研修会などを活用して、学校全体での授業の方法や評価のあり方に対する理解を深める。()		
指標		
・道徳科における研修会などを活かし、1 日学校公開日を年間 1 回の「道徳の日」と設定し、その日の様子をホームページに公開し、保護者や地域に発信する。		
・生活振り返りカードにおいて、「主に道徳の学習のとき、自分や友だちのことをじっくり考えた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90 パーセント以上で維持する。		
(R6 年度 94.1%)		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① 配慮や支援の必要な児童について、共通理解の場を月 1 回設けることができている。そのため、気になる児童について全教職員が認識することができている。それぞれの学級で児童が入力した心の天気を活用すると同時に、相談機能を使うことで児童はどの先生に対しても相談ができ、また、どの先生も児童の話をすぐに聞けるような状況になっている。いじめにつながるような問題が起こった際には、すぐに管理職、生活指導部長、人権教育部長に報告し、組織的に対応している。児童の家庭背景を考慮しながら、必要に応じて SC、SSW などの関係諸機関と連携したり、必要に応じてケース会議を行ったりしている。		
また、「いじめ（いのち）について考える日」は、学期に 1 回以上設け、全校児童への校長講話から各学級で共通認識のもと、さらに道徳教材を使用するなどして考える時間をもつことができた。また、いのちについて考える授業に取り組んだり、自分や友だちのよいところを見つける工夫をした取り組みを授業の中で取り入れたりした。		
② 毎年同じことをするのではなく様々な場面を想定した避難訓練を企画したり、引き渡し訓練、住吉区役所の方を呼んでの防災学習等、様々な状況を想定した命を守る学習を計画的に実施したりしている。		
授業として、各学年の発達段階に応じて津波・高潮ステーションや阿倍野防災センターに校外学習に行ったり、社会や総合の時間も活用したりして、防災についての学習を通して、児童の意識も高まっている。さらに、2 学期に行っている防災学習週間では消防署、区役所など様々な機関と連携した内容を実施し、参観授業と位置づけ保護者にも参加してもらうことで、家庭への啓発とし、家族ぐるみでの防災意識の向上に努めている。		
③ 各学年・学級の実態に応じて、一日の中での友達のいいところや感謝の気持ちを帰りの会で伝え合ったり、手紙に書いて渡したりする活動をした。様々な取り組みの結果、肯定的に回答する児童が 93.1%だった。これからも継続して、お互いの良さを見つけ伝え合う活動を進めていきたい。		

④ 1日学校公開日を「道徳の日」として設定し、指導内容項目（今年度については「情報モラルについて」）を全校で統一し、各学年の実態に応じた指導を行った。その際、学習者用端末を使うなど教材を工夫し、児童がより考えを深められるようにした。また、その日の様子をホームページに公開し、保護者や地域に発信した。

また、生活振り返りカードにおいて、「主に道徳の学習のとき、自分や友だちのことをじっくり考えた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が94.3%で、90%以上を維持している。

後期への改善点

- ① いじめはいつ起きてもおかしくない、常に子どもが安心して過ごすことができる学校環境を守るという危機感を教職員全体で共有しながら、各学年の集団育成の目標に向かって今後も取り組みを継続する。
- ② 訓練の内容として、必ず身につけておかなければならないこと、段階的に状況を工夫していくことを引き続き検討していく。
- ③ たてわり班活動や委員会活動、クラブ活動の中でも同じように、いろんな人の良さを伝え合える機会を設け、自尊感情を育み続けていく。
- ④ 心の葛藤する場面を本音で語り合い、そこでの気づきを実際の生活の場面で生かすことができるような学びとなるような授業を検討していく。

大阪市立東粉浜小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。(R6 年度 42.1%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。(R6 年度 75.5%)</p> <p>○令和 7 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上を維持する。 (R6 年度 早寝早起き 73.3%、朝食 97.3%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研究をすすめ、全学年で主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組むと共に全教員が一人 1 回の公開授業を行い、全教員の指導力を高めていく。 <p>()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」を肯定的に答える児童の割合を 85%以上で維持する。(R6 年度 92.2%) 年度末の教員アンケート「児童が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように発表ノート、クラスルームなどのソフトウェアを活用して指導できる」の項目について、肯定的に回答する教員の割合を 80%以上にする。 	
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>英語教育の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年週 2 回のフォニックス活動、3・4 年生の外国語活動、5・6 年生の外国語科を中心とした決められた時間を、ヒアリングとアウトプットを意識して実施する。 <p>()</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードにおいて、「英語の学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上で維持する。(R6 年度 89.8%) 	

<div>取組内容③【5 健やかな体の育成】</div> <div>体力・運動能力向上のための取組の推進</div> <div>・大阪府の体育応援・向上事業の取り組みや体力向上推進事業、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析も参考にしながら、体育科の学習時間内の運動量の向上、ならびに普段の生活の中での運動（外遊び）する習慣が身につくようにする。</div> <div>・体育的行事やチャレンジ大会、頑張りカードの活用、校内での表彰等、児童の体力向上への意欲をさらに高めていく。</div> <div>()</div>	B
<div>指標</div> <div>・毎月の生活振り返りカードの「運動（外遊び）をした」と肯定的な回答をする児童を 85%以上を維持する。(R6 年度 92.8%)</div>	
<div>取組内容④【5 健やかな体の育成】</div> <div>健康教育・食育の推進</div> <div>・児童の規則正しい生活習慣が身に付くよう、「早寝早起き朝ごはん」をキーワードに、指導と啓発を行い、睡眠時間と朝食をしっかりとるようにする。</div> <div>()</div>	C
<div>指標</div> <div>・生活振り返りカードにおいて、「各家庭で決めた時刻で睡眠がとれている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上で維持する。</div> <div>(R6 年度 早寝早起き 73.3%、朝食 97.3%)</div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<div>① 校内研究を計画通りすすめ、全学年で主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組んでいる。そしてメンター研修を行うことで若手教員の授業力や生活指導力の向上を図っている。さらに教員が進んで一人一授業を行い日々授業力を高めている。このような教員の取り組みの成果と課題についてを研究通信などで発信し、いつでもどこでも見ることができるようにすることで教員同士が学びあえるような機会を作っている。その結果、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」と肯定的に答える児童の割合は 88.8%で 85%以上で維持することができている。また授業研究会についてのアンケートでは、「授業研究会が内容を深め広げ、充実したものであった。」と最も肯定的に回答している教員の割合が 88%になっている。</div> <div>② 生活振り返りカードの「外国語の学習は楽しい」の肯定的な回答が 91.8%で、指標の 85%を上回っている。学校内に外国語カードやポスターなどを掲示したり、火曜日と木曜日の朝のフォニックス活動で C-NET の先生が輪番で参加したりするなど、外国語に親しむことができる環境を作っている。しかし、学年ごとの回答で、低学年と 6 年生の数値がほかの学年と比べて低かった。</div> <div>③ 生活振り返りカードの「運動（外遊び）をした」と肯定的な回答が 89.8%で指標の数値 85%を上回っている。しかし、高学年の数値が低いことが気になる。理由としては、気温が高く、外に行けない日も多かった。外に遊びに行くよりも教室で過ごすほうがよかったなどがあげられる。また、運動する機会を増やすために、運動委員会の取り組みとして、講堂開放の期間を昨年より 1 か月早く設定し、期間も長く設定した。</div>	

- ④ 生活振り返りカードにおいて、各家庭で決めた時刻で「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合は 73.4%で目標を下回った。夜遅くまでゲームや動画の視聴をしていたり、習い事で遅くなったりと理由は様々であるが、低学年でも低い傾向にあるのが懸念される(8・9月の結果を反映させているので夏季休業中の夜更かしなども入っている場合もある)。「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合は 96.0%で目標を上回っているが、指導と啓発は充分ではない。

後期への改善点

- ① 目標は達成しているが昨年度末よりも低い数値なので、引き続き成果と課題を活かし、児童が進んで話し合うことでさらに学びが深まる授業づくりに取り組んでいく。
- ② 低学年においては、外国語に触れる機会が火曜日と木曜日の朝の短時間での活動のみであるので、C-NET を活用したり、DREAM プラスを活用したりするなど、児童が楽しいと思えるような活動をさらに取り入れていく。6年生では、話すことに恥ずかしさや抵抗を感じていることが考えられるが、他教科との繋がりを意識して、楽しさや親しみを感じられるような学習を続けていき、コミュニケーション力の向上に努め、この学習活動が楽しいと感じられるように工夫していく。
- ③ 今後の課題として、
- (1) 寒いから教室にいるのではなく、寒くても運動(外遊び)する習慣をつけさせるために、学校全体で体力向上につながる取り組みを行い、運動意欲を高めていく。
 - (2) 室内で遊ぶ児童も多いので、各学級でみんなで外で遊ぶ機会を増やす。
 - (3) 一人一台学習者用端末を使いたいという気持ちで教室に残る児童も多いので、一人一台学習者用端末の使い方のルールをさらに検討していく。
- ④ 「早寝・早起き・朝ごはん」の指導と啓発という点では、まだ不十分なので、保健だよりなどの学校からの発信文書や生活習慣振り返りの期間を設けるなど、今まで以上に、学校での指導と家庭への啓発を積極的に取り組んでいく必要がある。

大阪市立東粉浜小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 85%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕(R6 年度 81.1%) ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 97%以上にする。(R6 年度 96.5%) ○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上を維持する。(R6 年度 91.2%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【6 教育 DX の推進】 <u>ICT を活用した教育の推進</u> ○主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、一人一台学習者用端末や大型モニターなどの活用に努め、ICT を有効活用した授業を学年の発達段階に応じて推進する。 ()	B
指標 ・生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習したことがよくわかった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上を維持する。(R6 年度 95.2%)	
取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <u>働き方改革の推進</u> ・勤務情報システムを活用しながら時間外勤務時間を減らし、教職員の健康管理をすすめる。 ・専科・教科担任制や、SSS の活用、学校行事の精選や会議時間の短縮に努める。 ()	B
指標 ・ゆとりの日や午後 6 時までに退勤する日を週 1 回以上設定する。 ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 97%以上にする。(R6 年度 96.5%)	
取組内容③ 【8 生涯学習の支援】 <u>「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組</u> ・子どもたちが読書を好きになる仕掛けをできることから積極的に取り組んでいく。(読書タイム、おすすめ本の紹介、読み聞かせ等)	C

<p>指標</p> <p>・生活振り返りカードにおいて、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上を維持する。(R6 年度 91.2%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習したことがよくわかった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 95.8%で目標を上回っている。児童の発達段階に応じた適切な ICT 活用を日々の授業で実践している。児童は一人一台学習者用端末を用い、毎時間の学習の振り返りや調べ学習など毎日活用する機会があり、PC 操作スキルも向上している。ICT を活用することで、自ら意欲的に学ぶ姿勢が育ち、学習への楽しさや集中力の向上にもつながっている。また、教員同士で ICT 活用の実践例を共有する機会を設けており、授業の工夫や改善を互いに学び合う体制が整っている。その結果、児童も端末を効果的に活用できるようになってきている。</p> <p>② ゆとりの日や 18 時までのセットする日を週 1 回以上設けることができている。専科や SSS 担当の活用を十分できている。教材時間を短縮できたり、空き時間にテストの丸つけや宿題等の提出物の確認をしたりできている。</p> <p>③ 生活振り返りカードにおいて、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は、88.6%で目標を達成することができていない。読書がとても好きな児童とそうでない興味がない児童の二極化が進んでいたり、調べ学習では、本の他にインターネットで調べることが選択肢に加わることで、図書の利用が減ったりしたことが割合の減少と考えられる。絵本の原画展を行ったり、教職員、学校図書館司書や図書委員会、PTA の方々などで、図書館開放や読み聞かせを行ったり、本に触れる機会を増やすよう、工夫し取り組んでいる。</p>	
<p>後期への改善点</p>	
<p>① 一人一台学習者用端末の使用に偏りすぎることが学習の深まりに影響する場合もあるため、ノートや鉛筆など従来の学習方法の良さを生かしながら、ICT を効果的に取り入れる場面を見極める必要がある。今後も教員研修や情報共有の機会を継続し、ICT と従来の学習方法をバランスよく活用した授業づくりを進めていく必要もある。</p> <p>② 引き続き、行事の有効性などを吟味し、見直し、精選を、年度末に向けてまとめていく。</p> <p>③ 現在行っている取組を継続して行うとともに、さらに読書が楽しめる企画を引き続き考えたり、学級でも係活動や児童同士で紙芝居を読んだり、読書感想画や本の帯の作成、おすすめ本の紹介、読み聞かせを行ったりするなど、様々な取り組みを検討し、できることから取り組んでいく。</p>	